



1.チームえんの皆さん 2.大きな掛け声が聞こえる設置作業 3.カレーで体を温めて再び作業へ 4.点灯したらどんな感じかな

向けての準備。若者たちは木によじ登って電球を取り付け、子どもたちはサンタクロースや小人の人形を箱から出して準備をしたり、フェンスに電球を取り付けたり。チームえん（地元の女性グループ）の皆さんは昼食のカレーとサラダづくりに取り掛かります。

段取りが好きなんよ

当日に地元住民が集まって、それぞれに準備をする。その裏側には地元の若者たちの姿がありました。

「段取りを考えるのが楽しい」と話すのは奥野匠さん（小田）。奥野さんは小田真木自治振興協議会若者会の事務局を担っています。

「当日の準備まで自分でやろうとしたらできないし、しんどい。何より楽しくないでしょ。当日までの段取りはするけど、当日の準備はみんなです。だからカタチになったときにみんな喜んでるんだと思います。その喜びを想像しながら段取りするのが楽しい。だからやめられない。こんな風に思えるのは、一緒に企画と段取りをしてくれる仲間がいるからです」

見守る先輩たち

しかし、企画の途中で行き詰まることもあるとのことでした。

例えば、予算が足りないときや誰に何をお願いすればいいかわからないとき。そんなときに助けてくれるのが、若者会の先輩の世代の皆さんです。

「若者会でやりたいことがあるとき、はじめから否定することなく話を聞いてくれます。相談しやすいし、話しやすい。実現に向けて一緒に考えてくれます」と奥野さん。

口出しはしないけど、困ったときは助けてくれるという地元の先輩。イベントのときは、いつも差し入れをもってきては、少し離れたところで若者たちを見守ってくれるそうです。

交流からはじまる

「僕もそんな大人になりたいたい、こんな地域を守っていきたい」と奥野さん。

「いつか世代交代の時が来る



若者会事務局の奥野匠さん

なんかあれば言うてごせ

ら、次の世代が楽しめるように。だからこそ、これまででもつながりづくりを大切にしてきました。

世代を超えた交流が人をつなぎ、地域を元気にしていく。これからも人と人が交流できる機会をつくっていききたい。月一で居酒屋とかもいいですね。結局、人が集まれば、何かが起きるんです」と話しています。



人口減少……。今では中山間地域だけでなく、日本全体が抱える問題です。

自治体間の人口争奪戦が加速する中、顔をのぞかせる一つの疑問。単に人口が増えればいいのか。

今月は、自分たちの住んでいる地域を盛り上げようと楽しく奔走する地域と若者たちを紹介します。



冬の校庭に灯る光

「わあ〜」。イルミネーションの点灯と同時に歓声と拍手が鳴り響くのは、午後5時過ぎの旧小田小学校の校庭です。

コロナ禍で思うように外出できない日が続いた今年。「冬を彩るものがほしい」「地域を元気にできないか」という地元の声を、地元の若者たちが企画し、地元住民と一緒にカタチにしました。

その名も「イルミネナイト」。寒くて暗い冬の夜を明るい光で彩ろうという企画です。その光景を一目見ようと集まったのは約70人。焚き火を囲みながらイルミネーションを楽しみました。

役割はそれぞれに

時をさかのぼること7時間。冷たい雨が降る中、地元住民が集まってきました。

これから始まるのは、夜に